

音更町総合計画推進委員会会議結果（要旨）

会議名	第5回音更町総合計画推進委員会
開催日時	令和4年2月9日（水） 午後6時30分から午後8時00分
開催場所	音更町役場庁舎3階 特別会議室
委員出席者	岡庭委員長、林委員長職務代理、石井委員、宇佐見委員、内形委員、河田委員、木野村委員、菅原委員、土田委員
オブザーバ出席者	北海道十勝総合振興局地域創生部地域政策課地域振興係長 滝下氏
町側出席者	【事務局】吉田企画財政部長、重堂企画課長、川村企画調整係長、杉本企画調整係主事、松本企画調整係主事、津久井まちづくり政策推進員
傍聴者	なし
議題・諮問内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 あいさつ 3 議件 <ol style="list-style-type: none"> (1) 重点施策及び総合戦略施策の審議結果のとりまとめについて (2) 第5期総合計画の取組と成果について 4 その他
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・音更町総合計画推進委員会議案 ・重点施策推進管理評価調書、総合戦略推進管理評価調書 《資料》 ・令和3年度総合計画推進委員会審議結果【資料1】 ・第5期音更町総合計画の取組と成果【資料2】 ・第5期音更町総合計画に係る推進管理評価結果【参考資料】
会議結果	下記のとおり
出された主な意見等	<p>【令和3年度総合計画推進委員会審議結果について】</p> <p>■重点項目2【交流人口の増加に向けた観光振興事業の推進】について</p> <p>委員： 緊急時における資金貸付制度の利用件数について、重複を含め約600件と記載しているが、現在は700件を超えているはずなので修正していただきたい。</p> <p>事務局： 社会福祉協議会事務局に正確な数字を問い合わせ、修正する。</p> <p>■重点項目4【教育環境の整備】について</p> <p>委員： GIGAスクール構想推進事業のセキュリティ面について、今年4月から改正後の個人情報保護法が施行され、個人情報を取り扱う事業者に対する責任が重くなる。セキュリティ対策の徹底は大前提であるが、学校も個人情報を管理する立場であることから、保護法の中でどのような位置付けになるのかを調べ、事業者に該当するのであれば気を付けていただきたいということをつけ加えてほしい。</p>

事務局： 教育委員会では何千人もの児童生徒の個人情報を抱えており、情報管理を徹底しなければならない。これまで行ってきたセキュリティ対策や情報管理に引き続き努めるとともに、4月から強化しなければならない部分は当然それに準じた対応をしていくことになるので改めて担当と確認する。資料については、4月から新たに施行される部分も含め、対策を徹底してほしいというように表現にさせていただく。

■重点項目7【ホームページの充実、インターネットの活用】について

委員： ホームページについて、Google の翻訳エンジンは時々誤った翻訳になるため、定期的にホームページの中身を点検し、修正すべきところは修正していただきたいという点を盛り込んでほしい。

事務局： Google 翻訳エンジンを全否定するのではないという理解でよろしいか。

委員： 全面的に多言語化したほうが、音更に住む外国人の方や世界から見て音更に住んでみようと思う方が増えるかもしれないのでよいと思うが財政的に難しいのかと。Google の翻訳エンジンを否定しているのではなく、細かい部分で調整が必要になるかと思うため、時々チェックしていただければと思う。

事務局： 令和2年度にホームページを全面リニューアルしたばかりなので、今後おそらく5年以上は使い続けると思うが、10年間の中では再度改修や更新を行うと思われる。ホームページは3か国語に対応していることから外国語では作成していないが、利用者が知りたい情報を細かい部分まで正確に得られるのかというところも難しいところもあるのかと感じる。また、Google の検索システムは、検索した履歴の積み重ねによって目的のページに飛べるようになるため、更新してすぐは何を検索してもでてこないというような状況であったが、年数が経過すれば大分使い勝手がよくなるものかと思う。翻訳についても日々進化していると思うため、Google に期待するしかないかとは思いますが、我々ができることとしては、必要に応じた見直しや古い情報をそのままにしないよう常に対応していきたい。

委員： 災害時のこともあるため、時々確認していただければ外国人の方も安心かと思う。

委員： 委員会の中で、広報紙のポスティングについては費用的に厳しいという回答があったかと思う。発言を撤回した方がよいか。

事務局： 費用については、確かに年12回で年間1,000万単位の費用がかかるのと今後かなりハードルが高いのかと思う。ここではせっかくいただいたご意見として、今後の課題として残す形で問題ないため、撤回する必要はない。

【第5期音更町総合計画の取組と成果について】

委員： 音更町の総合計画には、第4章「社会福祉」の中にアイヌの人たちの福祉について記載されているが、福祉分野以外にアイヌの方たちの記述はあるか。白老町のウポポイが完成したこともあり、音更町においてもアイヌ文化を育てていくというものを柱として掲げてもいいのではと思う。ちなみに北海道では、環境生活課以外でアイヌ文化について位置付けているものはあるか。

振興局： アイヌに関する施策については、北海道の環境生活部で所管している。アイヌの方々の福祉や生活を支えるといった観点の施策や起業、産業活動に関する施策以外にも、文化的な部分を伝承していきましょうという思いが強くあり、総合計画や様々な計画においてアイヌ文化の振興やアイヌの方々の生活について北海道内外、世界に向けて発信を行う施策を進めている。

事務局： 第5期総合計画では第4章の中で「アイヌの人たちの福祉」という項目を掲げているが、このほかにアイヌに関する記述はない。新たな第6期総合計画においては事務局でも議論があり、アイヌのみならず男女共同参画、性別、国籍、宗教、年齢等を全て包含し、「共生社会」という項目を新たに設け、その中でアイヌの施策を記述している。振興局と同様に、生活を支えるという観点やアイヌの方々の支援ということから、第5期総合計画では「社会福祉」の中に位置付けて

いる。

委員： アイヌの方について、どちらかというと上から目線的なところを感じ、もっとフラットな姿勢で対処した方がよいと思う。共生という言葉が使われているが、力の強い者から弱い者に対して共生という言葉を使ってもあまり意味がない。例えば人間がほかの動物と共生しようと言っても、人間のほうが動物よりも圧倒的に強いので説得力がなく、逆に弱い動物から共生しようと言ったほうが説得力がある。もっとフラットな姿勢を示していくことが重要かと思う。

委員： 少しだけ音更町の取組をご紹介できればと思う。郷土資料室のリニューアルについて、教育委員会ではアイヌの方をお呼びし、アイヌ文化の展示を見ていただくことで、協働で資料室を作り上げている。上から目線というのは本当に気を付けなければと思い、今の意見を聞かせていただいた。

事務局： アイヌ文化含め、性別、年齢など、強い弱いではなく同じ目線に立ってあらゆる文化の伝承活動、保存活動を行っていきたいという視点で計画に盛り込んでおり、委員と私どもの考えに違いはないと思っているため、ご理解いただきたい。

委員： 今回の達成状況である4.45の「B. 概ね計画どおり進んだ」という評価と比較できるものはあるか。第4期総合計画では同じ評価方法で評価を行ったのか。行っているのであれば、結果はどうだったのか教えていただきたい。

事務局： 第4期総合計画の資料がこの場がないため明確な比較は言えないが、第5期総合計画では明確な点数に基づいた評価を行った。施策1つ1つに点数を付け、章や重点項目ごとに平均を出し、最後に全体の平均を出すという評価方法は第4期総合計画でも同様に行っていたか不明のため比較ができない。今回の重点施策における結果は4.45のBだが、第6期総合計画の策定に向けた総合計画審議会では、8日目時点における取組と成果を今回と同様に資料として審議会に出しており、その際は4.5以上のA評価だったかと思う。その後はこれまでの推進委員会で説明してきたとおり、コロナにより評価を下げた施策があり、全体のランクがBへ下がっている。

委員： この評価結果の数値を出した根拠は、参考資料の令和2年度の第1章の平均点である4.69、第2章の4.37、第3章の4.29、第4章の4.42、第5章の4.47を全部足して5で割った数が4.45ということか。

事務局： そうである。

【全体を通して】

委員： 今回まとめた結果については、委員会で答申などはないのか。

事務局： 審議会と違い推進委員会では諮問はしていないため、推進委員会で議論いただいた内容を取りまとめたものを最終的に議会で報告し、広報やホームページを通じて町民の皆さんに報告させていただく。本日の議論でいただいたご意見を踏まえて文言修正を行うが、最終結果については、委員の皆さんにも郵送し、報告に代えさせていただきたい。

委員： 資料は非常に膨大で労力がかかっており、大変なご努力かと思う。ただ、資料を作るための努力はすごいが、もう少しコンパクト化することで、ここにかけた労力を違うところにかけるのではと感じる。

事務局： 確かに資料は膨大であるが、委員の皆さんに配布している調書は実は一部であり、このほかにそれぞれの施策ごとに担当で評価し、我々が確認するという作業を行っている。別の委員からも点数を出す作業が前向きなのかどうかという点についてご意見をいただいている。第5期総合計画のスタート時に評価方法を決めてしまったため、我々も10年間苦勞してきたし、推進委員の皆さんにも膨大な資料を配布し、短時間の説明でご意見をいただく場となってしまった部分もあった。来年度は第6期総合計画の評価のスタートになるため、簡略化できるものはしつつ、担当課が所管の施策の推進をしっかりと管理できるような仕組みにしたい。委員の皆さんに配布するも

のはなるべくコンパクトにしつつ、また、恣意的、社会状況に流されてしまうようなものではなくシステムチックに結果がでるような評価方法にした方がいいのではないかというご意見もいただいているので、次年度の1回目の会議までにわかりやすいものに変えていこうということで現在作業を進めている。

委員： 解決できない問題点というのが意外と重要である。ネガティブケイパビリティという解決できない課題を探し出す能力に事務的なパワーを費やすことでまた違ったまちづくりが可能になるのかと思う。